

## [008]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7347997>

---

出版情報：ポリモルフィア. 8, 2023-03-24. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：

## 巻頭言

岩田健治

九州大学理事 副学長

男女共同参画推進室 室長



2016（平成28）年3月に創刊されたポリモルフィアは、本年度で第8号の発行となります。「ポリモルフィア」とは、ギリシャ語で「多様性（ダイバーシティ）」を意味し、本学の活動紹介に加えて、男女共同参画全般を構成する諸分野における様々な課題を広く読者と共有し、学外からも幅広く寄稿を受け付けることで学術的な研究発表の場にもなる総合的な広報誌を目指しています。

第8号は、2つの特集をとりあげています。一つは、2022（令和4）年10月17日に開催された2022年度 女性職員エンカレッジメントセミナー「仕事に活かす 周囲を巻き込む力」に関する特集です。同セミナーでは、本学総長特別顧問・名誉教授の岡本正宏氏に「仕事に活かすデザイン思考・バックキャスト思考」というタイトルでご講演いただきました。そこでは「未来の課題解決の目標点」を定めることの重要性と、そこに到達するためのバックキャストイング手法が、明快に描かれています。その内容は、2018年の共創学部創設という個別の成功事例を超えて、「総合知で社会変革を牽引」することを目指す大学全体に鋭い提起をしています。また株式会社キャリアエラ代表取締役の藤井佐和子氏からは「周囲を巻き込む仕事術」と題するお話をいただき、仕事をスムーズに進めるための様々なヒントやアドバイスが示されました。

二つ目の特集は、本学ダイバーシティ担当副学長・男女共同参画推進室副室長の玉田薫氏による寄稿「女性の翼を折らない組織作りとは」です。そこでは、2004年に九州大学に男女共同参画推進室が設置されて以降、SENTAN-Qに至るユニークな取り組みの数々が、その「歴史的展開」のみならず「論理的展開」までも含め、精巧な筆致で描かれています。個別九州大学の枠を超え、おおよそ大学が、さらに広く社会が、多様性に満ちた包摂型のスタイルを実現するための普遍的な道のりの一端が示されており、是非とも多くの人たちに読んでいただきたい内容です。

九大フラッシュでは、同じく玉田副学長より2022（令和4）年5月6日（金）にオンラインで開催された第5回日本工学アカデミー（EAJ）ジェンダーシンポジウム「イノベーションと多様性」について報告がされています。同シンポジウムは、九州大学・文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」との共催によるもので、東北大学理事・副学長の小谷元子氏と、

独立研究者・作家・パブリックスピーカーとして著名な山口周氏から、基調講演をいただいております。

また九大フラッシュでは、女子高校生を対象とした理系インターンシップ制度「QURIESプログラム」について報じられています。同プログラムは、伊藤早苗記念基金の新たな事業として2021年に創設されましたが、初年度は新型コロナ禍によりオンラインでの開催となっており、本年度は8月に、ようやく対面での開催が実現しました。13校から28名の女子高校生が参加し、オリエンテーションの後、本学の理系学部のような研究室に1週間配属され研修を受け、最終日には研究活動報告が行われ、参加者からは好評を博しております。

さらに九大フラッシュでは、2022（令和4）年度九州大学女性優秀研究者賞（伊藤早苗賞）や3年ぶりの対面開催となったアカデミックフェスティバルの「オープンカフェ 2022」について紹介しています。また「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業「先端型」4年目と「調査分析」2年目（最終年度）の活動についても報告されています。

本誌は、九州大学の男女共同参画推進室の活動記録にとどまらず、広く学内外から投稿と寄稿を受け付けており、本年度は学内外の3名の方から、研究ノート、活動報告を寄稿いただきました。ポリモルフィア（多様性）の言葉どおり、様々な内容の記事を幅広く受け付けており、学内外の様々な方の情報発信の場となり、今後益々発展していくことを期待しています。